



行 産 水 谷 水 産 会  
立 三 水 産 会  
愛 知 県 立 同 窓 会  
高 校



### 新世紀へ 大きく船出

同窓会長 小田喜代春

みおすじ発刊にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。先の見えない経済状況の昨今ですが、会員諸兄には地域・職場にてご活躍のこととお喜びいたします。会長就任以来の皆様の手厚いご指導、ご支援、ご鞭撻に深く感謝申し上げます。

母校では、本年度、新進気鋭で心豊かな市川優校長先生が着任されました。先生は、長い間工業教育にご尽力されました。水産高校におかれましても、持ち前のバイタリテイと経験を生かし、母校にとって大きな発展の原動力となられ、信頼を深くしております。

また、校長先生を始め全職員が一丸となって活力ある新たな水産高校の建設に邁進さ

れているとお聞きしています。本会も皆様のご協力をいただき、微力ながら援助していきたいと考えております。

平成二年には、皆様のご理解とご協力を得て、創立五十年記念事業も盛大に行うことができました。三年後の平成十二年は、創立六十周年となり、会員の皆様のご賛同と、学校、PTAにもご協力をいただき水産高校にふさわしい記念行事が行えるよう計画中です。計画の概要につきましては本年度の総会で発表する予定です。会員の皆様の積極的なご理解とご協力をお願いいたします。

した地区委員、総会役員のご協力とご努力によって、総会も一年毎に活性化してまいりました。総会の時期につきましては、地域の行事等の課題があり、一人でも多くの皆様に参加できる時をと検討を重ねてまいりました。本年度の総会は、平成十年一月四日(日)に開催いたします。

今年、卒業二十五年度の総会役員が、我々の年度の総会を大成功させようと大きな意気込みで頑張っております。当日は懐かしい恩師の先生方も多くご招待する予定ですので、是非多くの会員の皆様方にご参加いただけますようお願い申し上げます。

新校長をお迎えし、創立六十周年(二〇〇〇年)の節目の年へ向けて更なる発展を願っています。皆様から新たな同窓会活動の活性化の知恵をいただきながら、「新世紀へ大きな船出」をしていきます。

最後に会員諸兄の益々のご活躍を記念申し上げると共に、本会へのご指導と今後一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



校長 市川 優

### 着任のご挨拶

同窓会員の皆様には、益々ご健勝にて各方面にご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃は本校に対してご支援を賜り深く感謝申し上げます。

この度、石丸昭和校長先生の後任として、五十七年の古き伝統を誇る本校に、東山工業高等学校から転任いたしました。全国水産高等学校の中核的役割を担う、この三谷水産高等学校に着任し、その職責の重さに身の引き締まる思いであります。

さて、最近の社会状況や産業構造の変化は、あたかも新しい世紀の誕生を待つ胎動のように、その動きには目を見張るものがあります。教育界も例外でなく、近代日本教育制度上の三大改革と位置づけられる、明治の義務教育制度導入の教育改革、第二次世界大戦後の民主教育制度への移行と

続く、第三の教育改革となる第十四期中央教育審議会の答申が諮問され、学校現場は今までに経験したことのない、新しい考え方とその対応が求められています。このためには、教員は従来の固定観念に固執することなく、柔軟な思考と果敢な実践力を発揮し、確たる教育理念に基づき、教育の不易な部分をしっかりと認識して、学校を活性化することが重要な課題となっております。その方途として、学校は広く門戸を開放し、同窓会・PTAおよび地域社会の人々から、幅広く意見や協力を求め得る組織を確立することが、不可避となります。

上述した教育の大きな変革の波の中で、水産海洋系高校の課題について考えてみますと、\*生涯学習の視点に立つた「豊かな人間育成の場」としての水産高校の教育方針の確立とその具現化\*二十一世紀が求める成熟社会を迎え、海

を資源とする水産海洋教育の在り方と将来展望の確立と云う大きな課題があります。新しい時代に向かって大きな変革を求められている教育現場では、今こそ調和の取れた組織体として学校運営に当

### 退職の挨拶とお礼

前校長 石 丸 昭 和



同窓会の皆さんには益々ご健勝で活躍のこととお喜

び申し上げます。まさに、光陰矢の如し三十八年の教師生活を終えました。そして四月から県教委高校教育課にお世話になっていきます。その教師生活の内、実に三十五年間勤めさせてもらった水産高校は私の人生の全部と言っても過言ではない掛け替えのない重い存在であります。中でも終りの五年間には、竹内四男次前会長・小田喜代春会長を始め役員・会員の皆様から温かいご理解とご支援を賜りました。また、最後の

り、学校を活性化させ、活力ある生徒を育成することが重要と考えられます。何卒、同窓会員の皆様方のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

二年間は全国水産高校長協会理事長に就任しましたが、小田会長には公私にわたるご協力を頂戴しました。厚くお礼を申し上げます。

さて、若千二十二歳の青二才が三谷水高に赴任したのは昭和三十四年でした。教頭先生からの「準備万端整え来校されたし」の電報で来蒲し、三日後に乗船せよとの命を受けました。実習船は北洋鮭鱒母船式漁業の仲積船として用船され東京港に停泊中でした。船乗りの右も左も分からない未熟な私は、これはとんだ場違いを犯したと汗顔の至りと後悔をしたものでした。船員生徒との洋上での触れ合いの中で、怒ったり怒られたり四年半の乗船教官を終え教壇

生活に入った。教室では「四圍なまりで分かん。その上色が黒くて外人だ」とさんざんひやかされながらのスタートでした。当時の生徒は今では最年長組で五十八歳。彼等の二世も多数を教え、次は三世を……と夢を描いていたころでの退職でした。

電車で、路上で不意に「先生」と卒業生から声を掛けられ、立派に成長した姿に接する時、教師冥利に尽きるのである。ある時は三十年前の面影を見付け、瞬時に名前が浮かぶこともある。が多くの場合、名前を聞くのとはばかられ、いかに名前を知っているふりをしながら「同級生は誰だった」彼は元気でやっているから」などと会話しながら、本人の名前を引き出そうとしたりもする。特に漁業科以外の卒業生の場合は苦慮する事が多い。

何はともあれ、私にとって水産高校と卒業生は大事な宝物であります。今後とも変わらぬご交誼のほどお願い申し上げます。

### 三谷水産今昔

現教頭 豊 田 国 昭



私は、昭和四十八年四月から五十四年三月

までの六年間、本校でお世話になり、再び今年四月、教頭として赴任致しました。

昔から「縁はいなもの味なもの」といいますが、私も再び三谷水高に赴任しようとは考えてもいませんでした。当時の校長は、かの有名な中川昌三先生であり、教頭は近田昌介先生でありました。両先生とも、私の敬愛する先生であり、また同じ理科の大先輩でもあるので、当時のことがよく脳裏に焼き付いて今でもよく思い出されます。

当時、私は二〇歳代後半から三〇歳代前半でしたので、部活動は陸上部を担当しました。生徒と一緒に三谷グランドや形原陸上競技場で、競って走っていました。その頃の生徒はエネルギーに満ちあふれ、体育大会とかソフト

ホール大会とかカッターレース大会に爆発するような活力とエネルギーを燃焼させていました。……しかし今の三谷水高生はどうかと言うと、授業においても、部活動においても、いまいち乗りが悪いというか、少々さめていいるのか、自分の殻にこもるのか、活力が乏しいような気がします。若者は感受性が豊かで活力に富んでいて、自分の夢や目標を持ち、何事にも積極的に取り組み体験し、自分を内面から磨き、おおらかに、たくましく成長したいものです。その体験が多い程、人生は豊かで楽しいものになるはずですから。先輩諸氏も、機会を見つけては学校に来ていただき、後輩達の応援をよろしくお願



# 頑張れ!!三谷水高

現蒲郡高校校長

渡辺 昭 吾



同窓会の皆様、ご機嫌いかがですか。この度、二度目の水産高校との別離を迎えました。

私に教師としての原点を教えてくれたのは、水産高校での教師生活であり、そのときふれあった同窓生の皆様でもあります。心より感謝の意を表する次第です。

思い出せば、私が最初に赴任した昭和四十三年は、国外では、ロバート・ケネディが暗殺され、チェコスロバキアがソ連軍をはじめとするワルシャワ条約機構軍によって蹂躪された短かった「プラハの春」といった暗いニュースが伝えられた年でした。一方国内では欽ちゃん・二郎さんのコント55がテレビに登場したり、阪神の江夏が401個の1シーズン奪三振世界記録を樹

立するといった明るい話題も多かった年でもありました。昭和四十五年三月迄の二年間と、平成四年四月から同九年三月迄の五年間、計七年間の思い出多いときを過ごさせて頂きました。

今ある立派な水産高校の礎を築いてこられたのは、なにはさておき卒業生である教職員を中心とした全職員的情熱と、一致団結にあることは間違いないと思います。今年度の「愛知県産業教育フェア」においても水産高校は活気に満ちあふれて、素晴らしいものでした。

「仕事が楽しみならば人生は楽園だ。仕事が義務ならば人生は地獄だ。」文豪ゴッリキの言葉です。これは人々の仕事に対する姿勢を述べたものです。

楽しそうに仕事をしている人は生き生きとしています。仕事を楽しくしている人は、

仕事を愛しています。だから、一生懸命に努力をし、意欲的に取り組めるのです。水産高校は、仕事を愛し、誇りを持った先生方に支えられています。私が貴校で教師生活を送ら

## 三谷水産高校の思い出

恩師（国語） 伊与田 勉

私が水産高校へ赴任したのは昭和四十四年の春でした。以来七年間お世話になりました。

赴任早々一製の担任を命ぜられ、七年間に一増、一漁と三度も担任しました。

約三十年も前のことですが、多少記憶も薄れています。最初の印象は、海軍服の男子ばかりの学校で、男のエネルギーを感じました。元気な生徒が多く授業もスムーズには運びませんでした。特に二機の連中は、室長のA君を中心に授業を妨害するのを楽しんでいました。同期赴任の同年の社会科の元気の良いB先生は、二機の「アラクレ」生徒とわたり合う熱血漢だったことが今だに忘れられません。その点、通信科の生徒はほとんどが真面目で、寝ているものも少なく教え甲斐を感じました。

せていただいたことに感謝し貴校が水産業界のスペシャリスト育成にむけてますます発展されることを心より祈念いたしております。

数年後、一増の担任をしましたが、二十人と他の科の半分でしたので、指導もしやすく良い生徒が揃っていました。例えば、真面目を絵に描いたようなC君は、卒業後長崎大学に推薦入学しました。また、佐久島出身のD君とは夏休み中お宅を訪問し、楽しい一月を過ごしました。そんな風でぜひ二年生も担任したかったです。先生は、二機の「アラクレ」生徒も年度によって差はありますが、漁業科の生徒に、

遠洋航海の時のお土産を貰ったことでもあります。今振り返ってみますと、苦しかったとき程思い出が残るという気がします。そして、水産高校の同僚の方とは永く付き合えるということです。理由は本音でつき合えるからです。

良い思い出をありがとう。水産高校万歳!!

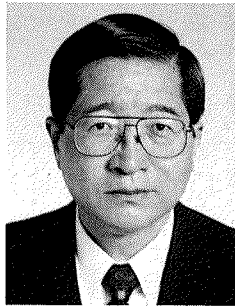


### 「寄稿のお願い」

皆様のお蔭を持ちまして、同窓会会報「みおすじ」も第六号を発行することができました。卒業生の皆様の声を反映して、仕事や暮らしに役立つ情報をお届けしたいと努力していますので、ご寄稿を是非お寄せ下さい。

# カッター大会の思い出

恩師(英語) 畔柳 正弘  
(現 旭丘高等学校定時制教頭)



私が三谷水産高校に勤めたのは昭和四十五年からの三年間である。その前年に大学紛争の嵐が高校にも吹き荒れ、当時は県下のかんりの高校が荒れていた。水産高校も例外ではなかった。私は四年間の私立女子高校勤務の後に当時は男子高校へ行ったので、見るもの、聞くもの全てがまるで別世界のようなだった。



その頃揺れ動いていた高校はどこも学校正常化に向けてその対応に苦慮していた。水産高校でも、連日のように職員会議を開き、意見の交換を

しながらその対応に取り組んだ。その結果、生徒との触合いを第一に考えようというこゝとで、翌年「カッター大会」と「文化祭(水高祭)」が実施された。カッター大会には教員チームも参加することになったので、何回も練習をした。重い

オールを他の人のオールと絡ませないで漕ぐのは並大抵のことではなかった。しかし、大会当日、技の高さと肉体の強さを競って、生徒のカッターと鏝競り合いをした。戦いが終わって生徒と固い握手をしたその感触は格別であった。生徒も私達も共に満足な笑顔に満ち溢れていた。生徒と職員が強い絆で結ばれた気がした。今でも鮮明に心に残る思い出である。

# 粋な学生服

昭和四十六年無線通信科 小林 英則

衣替えも過ぎたある月曜日の朝、七時十五分頃のことである。私は毎日通勤に名鉄電車を利用しており、なんとか座席が確保できたので、いつものように新聞を広げていた。まだ発車までには数分の余裕があった時のことである。急に車内が騒がしくなったので、入り口付近に目を向けると豊橋から名古屋方面に通学する私立高校の男子生徒四五人のグループが入って来たところであった。彼らはチェックのストラックスに紺のブレザー、それにシックなネクタイをしており、有名デザイナーによって作られたものと思われるような粋な学生服姿である。

私にも高校一年、二年生の息子が二人いるので、早朝の通学は大変だろうと暫く彼らの様子を見ていた。すると彼らは入り口付近で会話しながら、砂や垢で汚れている床にあぐらをかいて座り込んでしまった。電車の入り口付近は、発車前であるため乗客が次々と入ろうとしていた。会話に熱中していた彼らは邪魔していることに気付かない様子なので、ある客は不機嫌そうな顔をして隣の入口に早足で移っていった。

最近、通勤途中において、駅のコンコースや待合広場で、男子生徒が圧倒的に多いものの、女子生徒ですらミニスカートの学生服のまま座り込んでいる光景を度々目にする事がある。勿論、これは一部の高校生諸君のことと思われるが、我等の世代(親の立場)には

目にしたくない風景であり、街の景観上も好ましくない。

このことは、公共の場所では他人に迷惑をかけることは論外であるが、洒落た学生服が台無しである。ルーズソックスやピアスなどのお洒落れも

いいが、学生服を汚さず、自分らしく着こなすセンスこそ大切では無かろうか。

当時、我が母校の生徒は他校と異なった学生服であったため、良きにつけ、悪しきにつけ目だったので、一般の目に配慮することが多くあったように思う。

新調出来なかつた私の学生服は、先輩の卒業時に安く譲り受けた中古のチューニックであつたし、親友達もまた同様な状況であつた。それでもみんなが、学生服を大切にしていた記憶が残っている。

物質的に豊かな現在、各高校が競って洒落れた学生服を生徒に与えているが、生徒自身、是非、センスのあるお洒落れな高校生になってもらいたいと願っている。

その後、愛知県立春日台養護学校長 愛知県教育委員会特殊教育課長、愛知県教育委員会社会教育部長を歴任、愛知県立国府高等学校長を最後にご勇退されました。しかし、現在もなお、豊橋市教育委員、愛知県特殊教育推進連盟理事長また、中部福祉専門中学校長としてご活躍中です。

### 恩師 佐藤敬治先生の栄誉

恩師佐藤敬治先生は、平成九年春の叙勲におきまして「勲四等 瑞宝章」の榮譽に浴されました。また、十一月五日に愛知県知事表彰を受けられました。

先生は、昭和二十九年十二月から昭和三十九年三月まで本校で教鞭を取っておられ、

## 「卒業二十五周年を迎えて」

昭和四十七年漁業科卒業 建部清己

我々が入学したのは昭和四十四年四月、三河三谷駅の桜が満開だったのを覚えている。

夢と希望と不安に包まれて校門をくぐり待っていたのは「拳手の敬礼」であつた。水

高生としての基本であり、同期生の団結と上下関係のきびしさを体験したものであつた。

ただ、当時は恐ろしいものとして受け止め、反発したものでした。同期生と当時のことを話すと今は、とてもなつか

しく思い出されます。学生生活はとても楽しいことが多く、クラブの合宿・遠洋航海・初めて開催した水高祭。また、肩で風切る生徒を

優しくみていた三谷の町の人たちの心づかい、食べ盛りの胃袋を満たしてくれた先輩方。勉強の方は校風（国家試験に合格しなければ意味がない）を勝手に解釈し、あとで嫌と言うほど思い知らされるとも

知らず、先生方の熱い指導の

### 同窓生博士紹介

村松 毅氏（農学博士）  
第七回水産製造科卒業  
(昭和三十三年三月)

一九六五年、九州大学より授与。現在、長崎大学水産学部教授として活躍中です。

宇野将義氏（農学博士）  
第十二回水産増殖科卒業  
(昭和三十三年三月)

平成九年五月、東京大学よ

目をかいくぐり教室に居るよりカッターやヨットで海の上のいたほうが長かつたような気がします。

科の名称が変わり、チューニックの制服が廃止されたという寂しい変化もありました

が、社会の第一線で活躍されている同窓生の皆さんの日頃の忙しさを忘れ「肩振りがてら」同窓会に参加してみてください。

準備会としては充分なこと

はできませんが是非参加してください。

一九九二年、長崎大学より授与。現在、母校三谷水産高校の情報通信科の先生として後輩の指導に当たっています。

以上は、本人の榮譽ですが、同窓生としても大いに慶祝したいと思えます。

※ご連絡 その他の会員で該当の先生方がいらっしゃいましたら、ご連絡ご紹介下さい。

